

(仮称)ぬまづ健康福祉プラザの基本設計が出来上がりました。

昨年度策定した基本構想を踏まえ、基本設計がまとまりましたので、その概要を掲載します。

1 施設概要

- ・ 建設地：沼津市日の出町 389-2 及び 424-1
 - ・ 敷地面積：約 4,800 m²
 - ・ 建築面積：約 3,300 m²
 - ・ 延床面積：約 8,850 m²
 - ・ 構造規模：地上5階 鉄骨造
- プラザ棟：約 6,150 m²
- 多目的福祉施設：約 5,300 m²
- 夜間救急医療センター：約 850 m²
- 駐車場棟：約 2,700 m²

2 基本方針

『市民生活の基盤である家庭と地域社会が、共生と相互扶助の理念に基づき自立・連携してまちづくりに取り組むために、また「生涯を通じてだれもが住み慣れた地域で安心して暮らすまち」を実現するために、福祉・保健・医療の連携による地域福祉と健康づくりの新たな拠点として整備する。』
(仮称)ぬまづ健康福祉プラザ整備基本構想より

3 基本設計のポイント

(1) 「活動」・「空間」・「運営」を考える市民参加

- ・ 利用・運営検討会議の開催
- ・ 未来へつながる対話のプロセス
- ・ 継続的なワークショップ

(2) オープンプラン

- ・ 活動を限定しない空間
- ・ わかりやすい平面計画
- ・ 将来のレイアウト変更に柔軟に対応

(3) やさしい建築

- ・ 省エネルギー・省資源など環境に配慮(太陽光発電・雨水利用・屋上緑化など)
- ・ 室内に自然を取り込み連続する活動空間を創出(各所にテラスやニワを設置)
- ・ ユニバーサルデザイン・安全性の追及
- ・ 災害等緊急時の安全の確保

(4) 情報発信

- ・ ソフト、ハード、ヒトによる情報発信
- ・ 各所に情報発信スペースを設置
- ・ 様々な活動が外部から見える演出

4 各階の概要 (P5 ~ P9 の平面図参照)

プラザ01(1階)

学園通りに面した西側部分が多目的福祉施設、隣接する東側が夜間救急医療センターとなります。

多目的福祉施設のメインエントランスは西側で、南北にもサブエントランスを設けています。建物は、学園通りからセットバックさせ、外部デッキや情報板などで豊かな歩道空間を演出するとともに、通りから内部の様子が見えることで、市民が気軽に訪れることができるようにしています。内部には、総合案内、喫茶コーナー、展示ギャラリーなどが配置されます。

夜間救急医療センター(内科・小児科・外科)のメインエントランスは南側で、北側にもサブエントランスを設けています。大規模地震災害にも対応できるよう、レントゲン室、操作室には床免震システムを採用しています。

駐車スペースは、施設南側の進入路に面し 10 台分を確保するほか、敷地の一番東側に 94 台収容の自走式立体駐車場を別棟で建設します。車路は、進入路を赤色の矢印で、退出路を青色の矢印で表わしています。

プラザ02(2階)

生きがい活動室、健康増進ルーム、情報スペースのほか、相談機能を充実させるため4つの相談室とOAルームをはじめとする5つの会議室などがあります。

なお、立体駐車場から車椅子でも直接入れるよう、デッキ通路を2箇所設けました。

プラザ03(3階)

中央に、誰もが利用できる共用ミーティングコーナーを配し、これを取り囲むように福祉ボランティア活動室、障害者支援活動室、地域福祉活動室などを設け、ワンフローで一体的な福祉活動を可能とする施設配置としました。

なお、プライバシーや音を考慮して、会議室として使用できるミーティングブースも配置するほか、約100団体分の共用ロッカーを設置します。

プラザ04(4階)

300人収容の多目的ホールは、集会や講演会・音楽会のほか、可動椅子の収納により、室内での軽スポーツや体験実習なども行うことができます。また、多目的室は、主催者控え室や授乳室としても利用可能です。

プラザ05(5階)

子育ての相談・支援やボランティア実践の舞台となるふれあい交流室です。子供用トイレや手洗い、給湯、ベッドなどを設置し、お弁当を食べたり、ミルクをあげたりなど乳幼児や子育て中の母親、障害者にも優しい空間といたしました。また、南側と北側に芝生広場を設置し、子どもたちが自然に親しむことができるようにしています。

5 その他

(1) 外観計画

- ・ 外部に活動の様子が見えます。
- ・ 各所に設けたテラスやニワが建物に変化を与えます。
- ・ 西側には西日をカットする縦ルーバーを、南・北面には視線を制御するルーバー手すりを設置します。
- ・ 日影に配慮し、建物4階と5階部分を南側へセットバックします。

(2) 構造計画

① 基本方針

東海地震を想定した静岡県構造設計指針に準拠し、耐震安全性を確保します。

② 架構計画

フレキシビリティに富んだオープンプランを実現するために、鉄骨構造を採用し、大きなスパン計画としています。

③ 基礎計画

杭基礎とします。地表付近での地震時の液状化を考慮して、杭上部に耐震性能に優れた鋼管巻きの既製杭を採用します。

(3) 機械設備計画

① 基本方針

地球環境への負荷を抑制するために、建物の負荷を効率的に処理します。

② 空調調和換気設備

天井高を確保し、オープンプランを活かすため、床吹出空調システムを採用します。

③ 給排水衛生設備

緑化部分の散水用として、ポンプやろ過設備を使用せずに雨水利用を行います。

(4) 電気設備計画

① 基本方針

使いやすさ(操作性)、省エネルギー性を考慮したシステムを採用します。

② 自家発電設備

災害時を想定して自家発電装置を設置します。

③ 太陽光発電設備

自然エネルギーの有効活用を図ります。

0 2005年5月23日公開ヒアリング ▶▶▶ start!

プロポーザル提案

活発な質疑があり、提案の可能性や魅力について討議提案への課題もまとめられる



1 2005年6月24日 14:00 ~ 16:00 ▶▶▶

第1回利用・運営検討会議

於：沼津市役所3階会議室

プロポーザル提案の内容について説明各委員の意見を聞く今後の進め方を確認



2 2005年7月6日 10:30 ~ 16:30 ▶▶▶

検証：類似施設視察

3つの類似施設を視察し、その内容について意見交換を行う共通認識を築いた



3 2005年8月3日 13:30 ~ 15:30 ▶▶▶

市民意見交換01

於：沼津市役所8階会議室

模型を使ったわかりやすい説明活発な意見交換

- (主な意見)
- ・ロッカーの他に、レターケースがあるとよい。団体の拠点にできる。
 - ・屋上庭園を子供の遊び場のようにしてほしい。
 - ・運営開始後も、市民の評価や要望を確認できるシステムが必要。



4 2005年8月4日 13:30 ~ 15:30 ▶▶▶

市民意見交換02

於：第1地区センター

模型を使ったわかりやすい説明中学生も参加し、活発な意見交換

- (主な意見)
- ・1階外部に学生を呼び込む仕掛けとしてストリートギャラリーの設置はどうか。
 - ・5階ふれあい交流室の運営をしっかりと検討する必要がある。
 - ・大きなベッドを設置したトイレがほしい。



5 2005年8月5日 10:00 ~ 12:00 ▶▶▶

市民意見交換03

於：沼津市図書館

模型を使ったわかりやすい説明活発な意見交換

- (主な意見)
- ・1階に障害者が製作したものを販売できるスペースを設置してほしい。
 - ・オープンな会議スペースの方が気軽に利用できるのよい。
 - ・定年後にボランティアを始めたいと考えている方が増えてきている。



6 2005年8月8日 13:30 ~ 16:30 ▶▶▶

第2回利用・運営検討会議

於：沼津市民文化センター第2練習室

さまざまな年齢層が参加する利用・運営検討会議活発な意見交換と大切なコーディネート

- (主な意見)
- ・オープンカフェは、盲導犬を連れて来た人にとってよい。
 - ・トイレ内に広めのブースがほしい。
 - ・エレベーターはシーズルがよい。



7 2005年8月29日 13:30 ~ 16:00 ▶▶▶

第3回利用・運営検討会議

於：沼津市民文化センター第1練習室

今までの意見をまとめ、計画にどう反映されたか模型を使って説明し、再検証

- (主な意見)
- ・ギャラリーをうまく活用したい。
 - ・1階の打合せコーナーは自由な感じにしたい。
 - ・外部のテラスでミニコンサートをやってはどうか。



8 2005年9月30日 13:30 ~ 16:30 ▶▶▶ future!

第4回利用・運営検討会議

於：沼津市民文化センター第2練習室

基本設計まとめ

- (主な意見)
- ・駐車場の利用方法を検討していく必要がある。乗り合わせをPRしてはどうか。
 - ・だれもが気軽に相談でき、職員からも利用者に気軽に話し掛けられる雰囲気を作りたい。
 - ・自主企画運営なども積極的に検討していきたい。



ユニバーサルデザインのポイント

公平性と柔軟性

- 単純性・直感性 空間認識が容易
- 柔軟性 ユーザーに応じた空間利用が可能
- 公平性 だれもが公平に利用できる
- 安全性 事故や災害から生命を守る

市民・利用者が中心

- 思いやりのある人的対応
- 運営ソフトの充実
- ボランティアの設置
- コミュニケーションを大切にしたい運営

わかりやすい・使い易い

- 中が見える
- 大きな文字のサイン
- 光・色・素材による空間のわかりやすさ
- X軸、Y軸のストリート+床サイン



基本設計段階



プロポーザル段階



実施設計段階

運営への継承

継続的ワークショップ

運営へ未来へ継承される活動

共同作業・実感・記憶

自分たちでつくったという実感・かたちを残す

人づくり・意識啓発

子ども・若者・高齢者を巻き込んだワークショップ

予定ワークショップ

子ども・若者の参加(アートワーク) サイン庭造り 使い勝手検討会 など

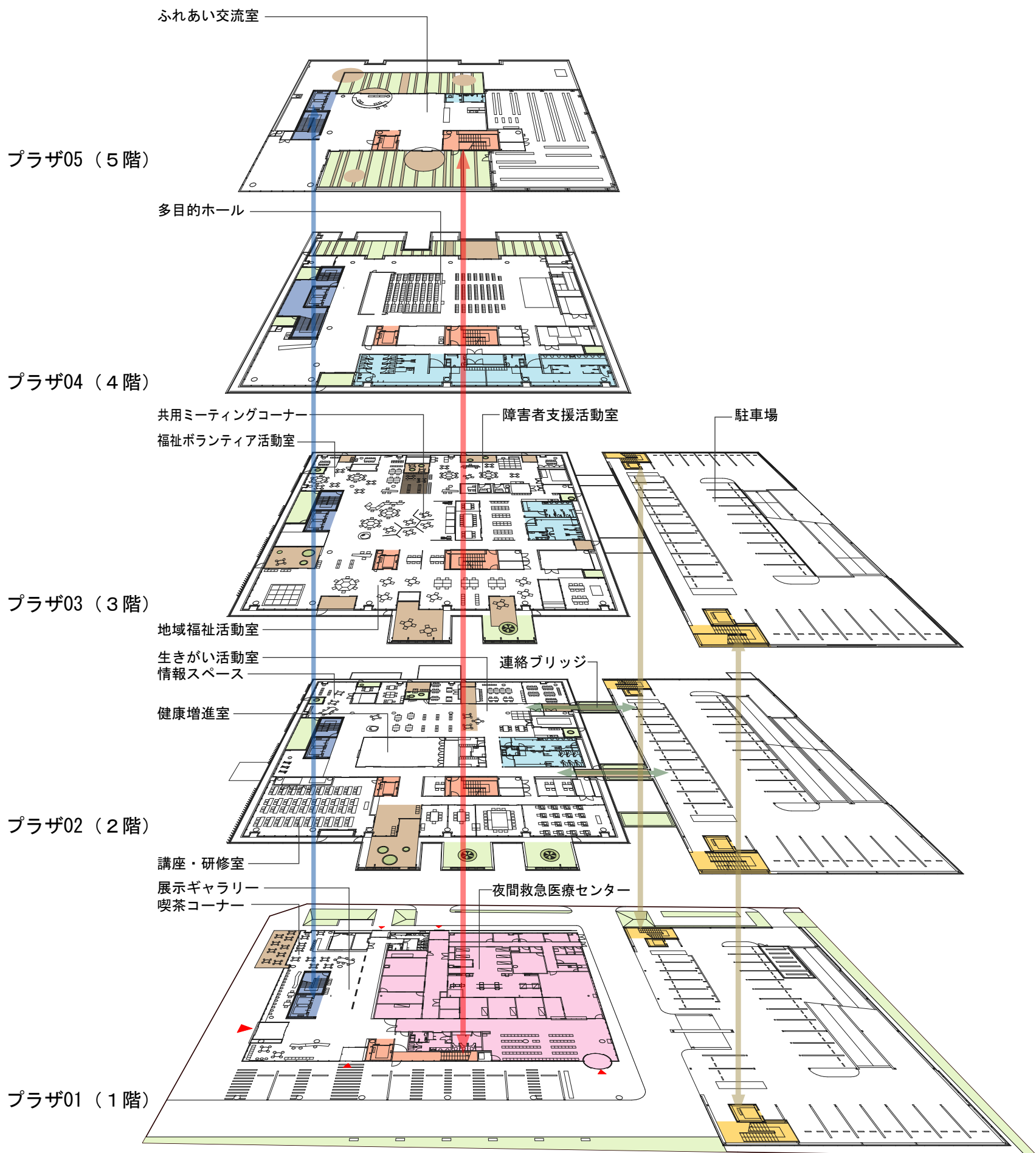
スケジュール

	2005年							2006年	2007年
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
テーマ	共通認識・共同作業・建築集中検討					運営検討		開館に向けた運営プログラム	OPEN
ワークショップ		プロポーザル提案	市民意見交換	施設検証				シンポジウム	
設計		基本設計		実施設計				工事	

スパイラルアップ(継続的発展)

供用開始後、さらに利用者が『建築を育てる』プロジェクトの経験を市内外の次のプロジェクトに活かす

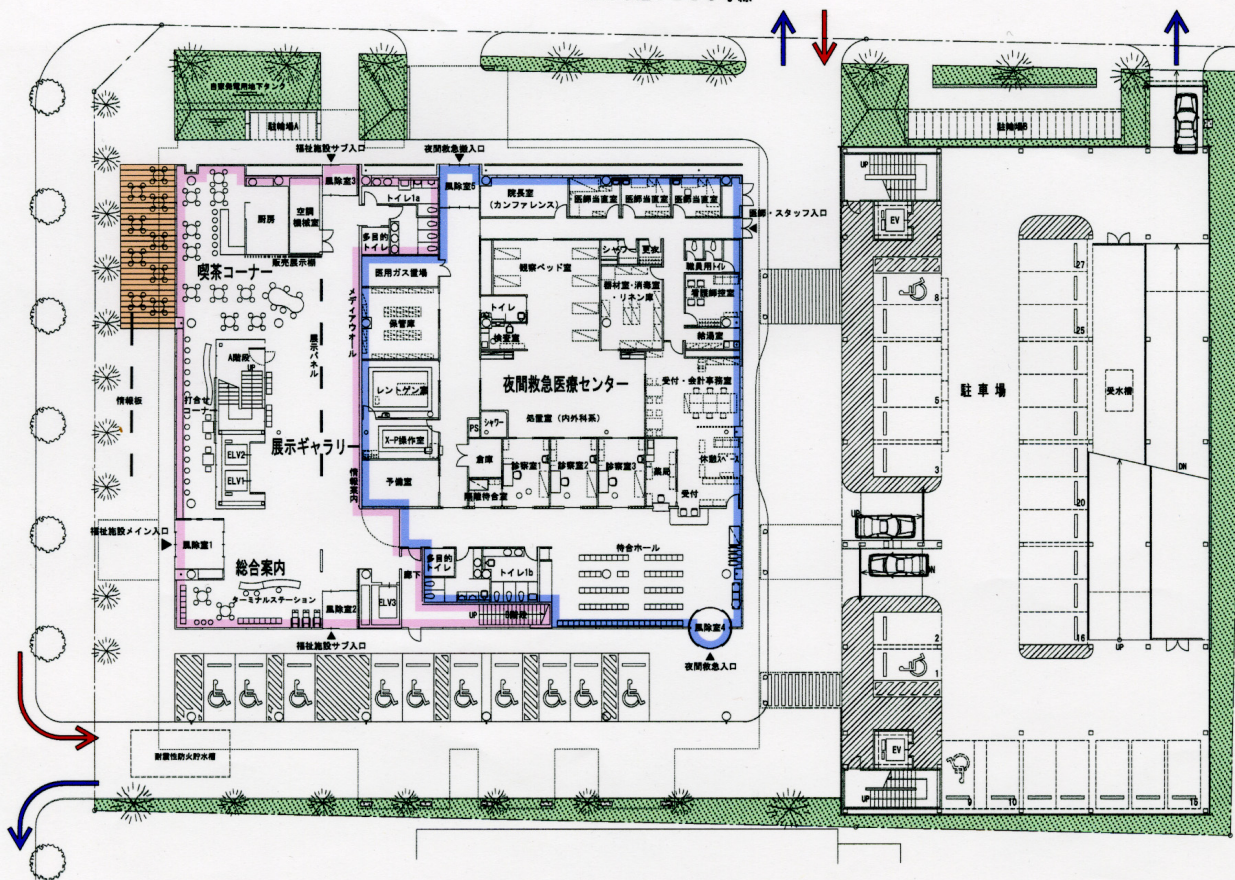


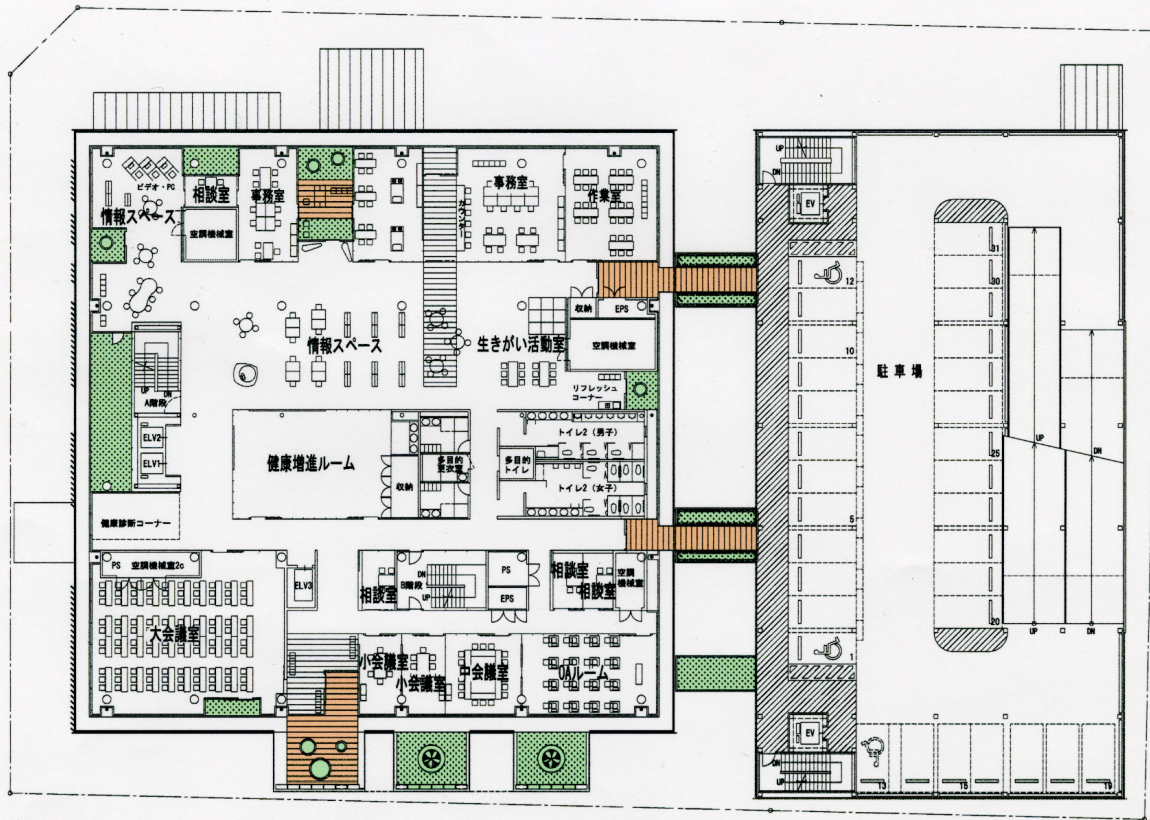


沼津市道3286号線

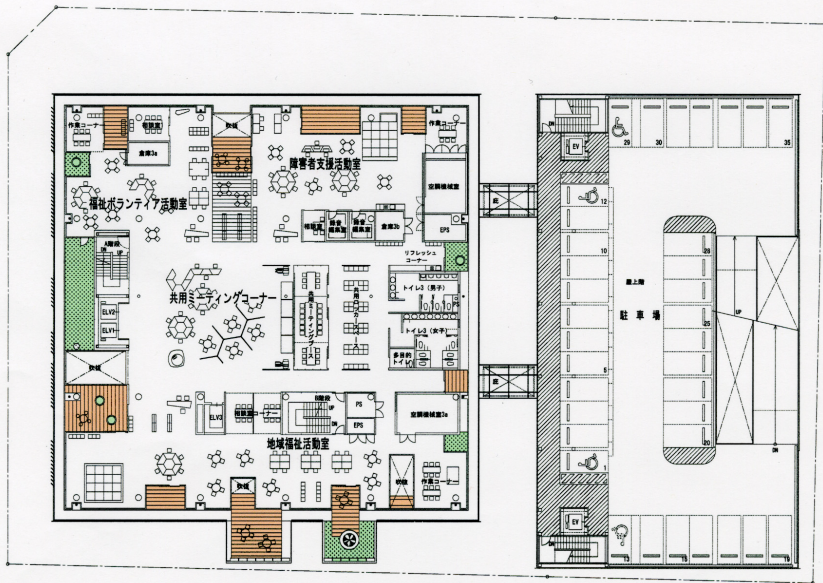


三枚橋岡宮線(学園通り)





DATE	SHEET NO.	SCALE	DESIGNER	DRAWN
DATE			SHIP	DRY



施設構造

Q1 オープンプランとはどういうことをいうのですか？ その特徴と利点は何ですか？

- A1 各階ともフロア全体が見通せる広々とした空間とし、動線もコンパクトで分かりやすいので、利用者に優しく利用しやすい施設になります。
- これにより、利用者同士の交流が促進し、利用者の主体性を尊重した多様な活動や弾力的な運営が生まれるものと期待しています。
- また、地球環境への負荷の抑制、日常メンテナンスの容易さと安価なランニングコストを念頭に、居住域のみを効率的に空調する「床吹き出し空調システム」を採用することで、利用者ニーズや運営形態等の変更にも柔軟に対応できる点もメリットの一つです。

ユニバーサルデザイン

Q2 どのようにユニバーサルデザインに配慮したのですか？

- A2 ユニバーサルデザインへの取り組みにあたっては、①自然な形で誰もがニーズに応じて利用できる、②分かりやすく使いやすい、③ハードだけに頼らず、思いやりのある人的対応などソフトのサポートも重視するといった観点を大切にしています。
- 具体的には、次のような工夫をしています。
- オストメイト・車いす利用者・乳幼児と母親等誰もが使えるトイレの配置
 - 文字情報、誘導サイン、立体触知図、集団補聴設備の設置
 - 車いすやストレッチャー対応の安全で広い通路
 - 外が見えるシースルーのエレベータ
 - 光を活用した分かりやすいサイン
 - ボランティアベイの設置（思いやりのある人的対応）
- etc.

Q3 乳幼児を連れていっても大丈夫ですか？

- A3 乳幼児をお連れの方にも安心してご利用いただけるよう、色々な工夫をしています。
- (トイレ)
- 各階のトイレは、男女それぞれにベビーベッドやベビーキープを設置するほか、オストメイト対応で大きなベッドを備え付けた多目的トイレを配置します。
- (ふれあい交流室)
- 5階ふれあい交流室には、育児相談もできる事務コーナーや子どもと気軽にお弁当が広げられるよう手洗いや給湯設備の付いたユーティリティコーナーを配置します。また、乳幼児や障害のある方の利用に配慮した大小のベッドや子ども用トイレを設置するほか、子どもたちが安全に外遊びできるよう南北に芝生広場を設けています。

(駐車場)

プラザ棟南側に乳幼児をお連れの方や車イス等を利用される方が安全に乗降できるよう乗降スペース付きの広々とした駐車スペースを10台分確保するほか、立体駐車場内にも同様の駐車スペースを各階に確保いたしました。

(その他)

気軽にくつろげる畳コーナー、授乳や休憩に利用できる多目的室や個室更衣室なども設置します。

環境対策

Q4 緑をどのように取り入れますか？

A4 建物周りに植栽を施すとともに、屋上緑化やスキップテラス、壁面緑化等により立体的な緑化計画としています。この屋上緑化やスキップテラス等により、室内に居ながら緑や自然を感じることでできる豊かな空間を創出しています。

また、緑化ゾーンも市民が育てる庭として位置付け、緑化ボランティアと訪れた市民との庭交流の場、園芸福祉実践の場にしていきたいと考えています。

Q5 省エネルギー・省資源への取り組みについて教えてください。

A5 地球環境への負荷を抑制するため、屋上緑化や壁面緑化によって緑を増やし、自然断熱を行います。

また、植栽への散水に雨水を活用したり、自然換気・自然採光を豊富に取り入れつつ、日射制御ルーバーや断熱ガラスにより熱負荷を制御する工夫もしています。

緊急時対策

Q6 災害等緊急時の安全対策について教えてください。

A6 非常時には、1次避難が最も効果的ですので、周囲にまわるバルコニーや屋上広場などへの1次避難を最優先に設計されています。

また、音声付フラッシュや文字情報により、視聴覚障害者へも的確に避難情報をお知らせする工夫もしています。

なお、大規模かつインフラ復旧に時間のかかる災害が発生した場合も想定して、1週間対応の非常用発電機や地下ピットを汚水槽として利用するトイレ、直結型の給水バイパスなどを設置するとともに、夜間救急医療センターのレントゲン室、操作室に床免震装置を施して医療機器の安全確保を図り、プラザのピロティーや多目的ホールをトリアージスペースとして活用できるようにしています。

市民参加

Q7 設計には、どのように市民が参加したのですか。

A7 健康福祉プラザを、市民の皆様にも長く親しまれる施設とするため、市民や関係団体、公募委員等で組織する「利用・運営検討会議」を設置し、先進施設の視察や5回にわたる検討会議を開催して、施設内容や施設配置、動線計画等を検討していただきました。また、NPOや市民団体、市民ボランティアの皆さんとの意見交換会も3日間開催し、これらの意見を基本設計に反映させていただきました。

この他、市民主体の利用方法や具体的な活動プログラムを企画する市民グループを募集し、それぞれにワークショップをしていただいたところ、10のグループから事業提案をいただき、今後の利用・運営のあり方や施設で展開する具体的な事業の企画に活かしたいと考えています。

管理運営

Q8 ボランティアは運営に参加できますか。

A8 健康福祉プラザを、市民の主体的活動の場や交流の場とし、末長く多くの市民から親しまれ利用していただく施設とするために、市民の皆さん自ら運営ボランティアとして運営に関わっていただきたいと考えています。

運営ボランティアとは、例えば受付ボランティアや緑化推進ボランティア、託児ボランティア等を想定していますが、今後、公募により皆さんの意見を伺いながら、組織や活動内容等について具体化していく予定です。

駐車場

Q9 駐車場での交通安全対策について教えてください。

A9 駐車場への車両の出入を安全かつ円滑に行うことができるよう、学園通り側と北側市道側の2箇所に入出口を設置するとともに、北側に立体駐車場からの専用出口1箇所を設け、混雑の緩和と交通事故の防止を図ります。

また、立体駐車場内での上り車線と下り車線は、対面交通のないよう車線を別にして交通事故の防止を図るとともに、送迎車両は立体駐車場に入らず、場内を無料で通過できる仕組みとしています。

なお、大きなイベントの際には、主催者に車両誘導員等を配置していただくなど、安全で円滑な出入を確保します。

事業スケジュール

Q10 今後の事業スケジュールについて教えてください。

A10 平成 19 年中の供用開始を目指し、平成 18・19 年度の 2 か年継続事業で建設工事を施工します。

なお、建設工事と並行して、管理運営面での検討も引き続き市民の皆さんの参画を得ながら進めていきますので、どうかご支援ご協力をよろしくお願いいたします。